

Coffee Break

May 2007 Vol. 61
コーヒーブレイク

●【連載】コーヒー産地の香り

ベトナム社会主義共和国

●コーヒー物語

コーヒー産業の変貌と進化2

●コーヒーと健康

コーヒーが糖尿病を予防する…?

●ヨーロッパの文学カフェ

コーヒーを愛した
モーツァルトの街をゆく
ザルツブルグ

Coffee Break

コーヒーブレイク 2007 MAY. Vol.61

Coffee Breakは、昭和56年の創刊以来、コーヒーの生産・消費・市場・歴史・文化・科学情報など、様々な視点から長い時間に渡ってコーヒー業界内の大きなトピックスを記録し続けてきました。

日本人の生活の中でコーヒーが親しまれるようになって以来数十年、今やコーヒーは単なる嗜好飲料の枠を越えて、ライフスタイル、ファッション、カルチャーの形成の一部としての役割を果たしつつあります。また、「コーヒーと健康」といった飲用面からの科学的分析も近年活発に行われるようになりました。

現在、Coffee Breakは業界情報誌として、またコーヒー専門誌として、コーヒーにまつわり「現在、何が考えられ、何が行われているか。」を読者の皆様に御紹介しております。

CONTENTS

ヨーロッパの文学カフェ コーヒーを愛したモーツァルトの街をゆく ——ザルツブルグ 南川三治朗	1
Coffee Culture 名曲の中のコーヒー⑦	8
コーヒーと健康 コーヒーが糖尿病を予防する…?	10
Coffee Column コーヒーの歌を詠む ギローム・マシユ『コーヒーの歌』後編	14
連載・コーヒー物語 7 コーヒー産業の変貌と進化2	18
連載・コーヒー産地の香り7 ベトナム社会主義共和国	25
コーヒーブック情報	31
全日本コーヒー協会活動報告	32

コーヒーを愛した モーツアルトの街を行く。 ザルツブルグ

ザルツブルグといえばモーツアルトを生んだ音楽の都としてその名は世界中に知られている。偉大な天才作曲家、神童モーツアルトは少年時代をこの地で過ごし、旅の合間を縫ってザルツブルグに立ち寄り家族と一緒に過ごした。モーツアルトはコーヒー好きでも有名で、作曲の供にコーヒーは欠かすことのできないものであった。モーツアルトの愛したゴシックやバロック風の美しい建物が街のそこに残るザルツブルグを散策しよう。

文・写真 南川三治郎

Wien

Cafe Bazar (カフェ・バザール)

Austria

ザルツブルクが世界で最も美しい街のひとつとして名高いのは、旧市街に点在する多くの寺院、イタリア風の美しい建物や広場、中心を流れるザルツアツハ川とホーエンザルツブルク城塞の調和といえる。





世界のカフェを撮る



ホーエンザルツブルク城塞テラスから見下ろすゴシックやバロック風の建物が美しい、ザルツブルクの旧市街。



メンヒスベルクの山上にあるカフェ・ヴィンクラーのテラスからは、夏の音楽祭でつとにその名を知られる祝祭劇場や大聖堂、レジデンツなどの旧市街とザルツァッハ川の美しい眺望が幻想的に浮かびあがる。



朝9時も過ぎると、夜の帳が降りるまで、人気のザルツァッハ川に面したテラス席は老若男女の人たちでいっぱいの盛況だ。

モーツアルトを偲んで飲むコーヒーは 緑の古都ザルツブルクの 澄んだ空気と青い空に映える

ザルツブルクといえば、すぐ思い出すのが有名な夏の音楽祭や、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の美しい場面の数々。それにモーツアルトの故郷でもある。

人ひと人でごつたがえす旧市街の散策に疲れたら、ザルツァッハ川を渡って対岸の新市街に足を伸ばし、川辺にあるウィーン風のクラシックなキャフェ「バザール」に立ち寄ってみよう。

毎年7月下旬から8月いっぱいにかけて行われる「ザルツブルク音楽祭」は、世界各国からトップ・クラスの音楽家が参加して開かれる、世界でも屈指の音楽フェスティヴァル。

この世界一を誇る音楽祭を一目見ようと世界各国から音楽ファンたちが駆けつけ、夏のザルツブルクは通常の5倍の観光客で街ははち切れんばかりに膨張する。



ザルツァッハ川の堤防を兼ねた遊歩道にはベンチも置いてあり、日光浴を楽しむ人たちの憩いの場となっている。



世界のカフェを撮る



テラス席の賑わいが唾のように静で落ち着いた店内。

森影を映して、緩やかに市内を流れるザルツァッハ川の岸辺に建つキャフェ「バザール」はマカールト橋とシュターツ橋の間にあって、ザルツブルクの旧市街や丘の丕に聳え建つホーエンザルツブルク城塞が望める絶景の地だ。

この景色の良さに魅かれて、バザールを訪れる人々は、必ず岸辺に広がるテラス席に座りたがる。特に夏の音楽祭

まぶしく光り輝く太陽の下に広がるザルツブルクの光景を堪能したら、席を店の中に替え、落ち着いたクラシックなインテリアの中でいただくコーヒーの味もまた格別になる。

ギシギシと音を立てる床板を踏んで店内に足を入れると、そこはまるで18世紀の世界。蝶ネクタイをした老紳士やチロルハットを小粋にかぶった女性たちが、コーヒーを前におしゃべりに余念がない。この店の常連は新聞や雑誌

や観光シーズン中は、いつも外国からの観光客たちで賑わっている。

白いペンキを塗った木の椅子に腰をかけ、豊かな水をたたえて流れる川面に目をやると、この街に生まれ、この街を愛したモーツァルトの旋律でも口ずさみたくなる。

「お菓子はいかが？」「銀のトレイに自家製の自慢のケーキを乗せて、愛らしいフロイライン（お嬢さん）が席を回ってくる。チロルの鈴の音のような澄んだ声と笑顔につられて、つい注文してしまうお客もいるだろう。

まぶしく光り輝く太陽の下に広がるザルツブルクの光景を堪能したら、席を店の中に替え、落ち着いたクラシックなインテリアの中でいただくコーヒーの味もまた格別になる。

ギシギシと音を立てる床板を踏んで店内に足を入れると、そこはまるで18世紀の世界。蝶ネクタイをした老紳士やチロルハットを小粋にかぶった女性たちが、コーヒーを前におしゃべりに余念がない。この店の常連は新聞や雑誌

クラシックなインテリアに身を置いて、その風景に溶け込むかのように香り高いコーヒーをいただくことは至高の幸福感を味わいである。

Cafe Bazar

カフェ・バザール

カフェ・バザール





テラスの椅子に座り、一杯のコーヒーを飲みながら新聞を読む人。

カフェ・バザール
Cafe Bazar
●住所：Schwarzstrasse 3, 5020
Salzburg Salzburg
☎：+49 662 874278
火～土：7:30～23:00,
月：10:00～18:00
日：休み（7,8月は営業）

に目を通しながら、秘かに周りの人たちの様子を観察するのが何よりの楽しみとか…。これもキャフェの持つ一面であろう。

そして、なによりも美しい街の落ち着いた雰囲気の中で、ゆつたりとした気分で飲んでこそ、コーヒーは最高の味となる。コーヒーほど飲む時の雰囲気、特に場所と気分によって味が変わるものはないといえるだろう。落ち着いた雰囲気、特にザルツブルクのような古都で飲むコーヒーの味はまさに最高だと私

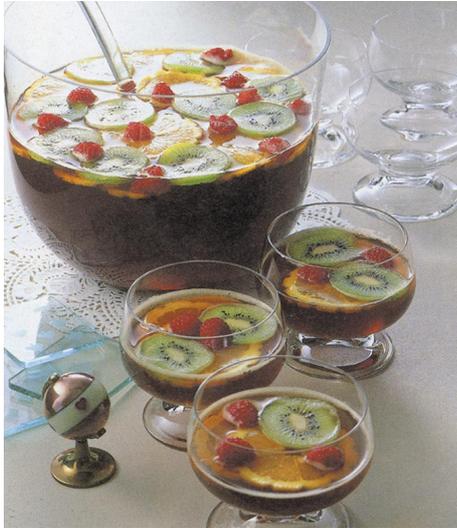
は思う。

落ち着いた雰囲気で、解放された気分の時にゆつくりと飲んだり、あるいは現実を超えて空想の中に自分を置いている時などに飲む一杯のコーヒーほど気分を素晴らしくするものはない…。

モーツァルトもそうであったのではないかと私は思う。神童モーツァルトは、食事のとき、遊んでいるとき…時や場所を問わず頭に浮かんだメロディーを五線譜に写し込んで書き上げていった、根っからの天才であったと伝えられる。

初夏の爽やかな光のもと、ザルツァッハ川の川岸を歩く人々を眺めながらコーヒーを楽しむ人たちの話題は音楽祭のことであろうか。





FRUIT COFFEE PUNCH

コーヒーベースのシャンペンと果物のフルーティーなパーティードリンク。果物の彩りとコーヒーの風味がパーティーの楽しさを演出します。

材料(10人分)

ラズベリー	250g
オレンジ	4個
キウイ	2個
ウォッカ	150cc
冷たいコーヒー(濃く抽出)	...	200cc
シャンペン又は白のスパークリングワイン	...	2本

ラズベリーとスライスしたオレンジをパンチボールに入れ、ウォッカとコーヒーを加えて2時間おき、香りをだす。シャンペンを加えキウイのスライスを浮かべる。

社団法人 全日本コーヒー協会発行

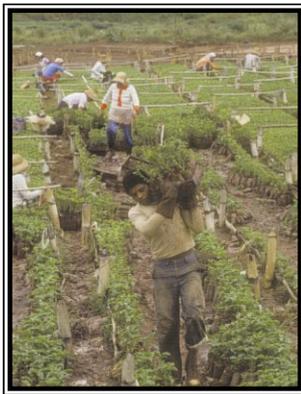
Coffee Break

vol.61

発行日 平成19年5月31日
 編集者 オフィス シーン
 デザイン グラム
 印刷所 株式会社DMP
 発行所 社団法人全日本コーヒー協会
 監修責任者 社団法人全日本コーヒー協会・広報委員会
 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町6-2
 TEL(03)5649-8377/FAX(03)5649-8388
<http://coffee.ajca.or.jp/>

「コーヒーブレイク」の御購読、またはバックナンバー御希望の方は、『お名前(宛先)』『送付先御住所』『お電話番号』『御希望部数』を御記入の上、左記編集部宛にFAXまたは葉書にて、御連絡下さい。
 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町6-2
 全日本コーヒー協会内 コーヒーブレイク編集部
 FAX 03-5649-8388

*御購読料は一部600円(送料・税込)
 本誌送付の際に振込用紙を同封させていただきますので、御手元に届き次第お振り込み下さい。
 尚、「コーヒーブレイク」のバックナンバー・新刊・御購読情報は全日本コーヒー協会ホームページでも御案内させていただきます。
 アドレス <http://coffee.ajca.or.jp/>



表紙

コーヒーの栽培は、苗床で種子から丁寧に育てられる。苗の栽培に使用される種子は、生産量が多く寿命の長い厳選された木から採取される。苗床は農園の中でも厳選された日陰の場所が選ばれ、20センチほどの成育を待って初めて農園に植え付けられる。



社団法人 全日本コーヒー協会